

推薦書

亀山茂樹先生は1973年に新潟大学医学部をご卒業後、新潟大学脳研究所脳神経外科に入局され、1986年にアイオワ大学に留学、1987年には新潟大学脳研究所の講師を経て、1995年より西新潟中央病院に赴任されました。2008年からは西新潟中央病院院長をお務めになり、現在は西新潟中央病院名誉院長、新潟聖籠病院脳神経外科部長を務めておられます。また、2002年には第25回日本てんかん外科学会会長、2011年には第45回日本てんかん学会会長、2013年には第28回日本生体磁気学会会長を歴任されました。著書としては、「脳神経外科手術のための電気生理モニタリング」「難治てんかんの外科治療」「笑いの脳科学」など、学術的な活動に加えて、「一般医のためのベーシックてんかん診療」「後遺症・合併症としてのてんかん」など、教育的な活動にも尽力されています。

亀山先生は、日本におけるてんかんや機能的脳神経外科の発展に多大な貢献をされ、その功績は国内外で高く評価されています。日本で初めて機能脳神経外科を院内標榜し、1996年からてんかん外科と定位脳手術（パーキンソン病や不随意運動に対するDBSなど）をテーマに掲げ、特に視床下部過誤腫に対する定位温熱凝固術を確立されました。このアプローチの確立は、てんかん外科治療法の国内外における大きな転換点となりました。

2008年には視床下部過誤腫センターを設立し、国際的にも最多の手術数を誇るまでに至り、笑い発作の消失率が90%に達して、多くの患者さんがその手術の恩恵を受けています。また、笑い発作の発作原性機序やその症候発現に関する脳内ネットワークを解明し、てんかん外科のみならず、脳科学的視点から「笑いの科学」にも新たな道を開きました。

亀山先生の科学的・哲学的見解は、視床下部過誤腫や「笑い」に関する研究に大きな影響を与え、関連する著書も多く、読者に深い感銘を与え続けています。

亀山先生は、てんかん治療や脳深部刺激療法の分野で高い専門知識を持ち、その発展に大きく貢献されてきました。2023年12月に導入された「てんかん脳深部刺激療法」も、亀山先生を含む歴代の専門家たちの努力の成果です。

先生は、常に周囲の若手医師たちに惜しみない指導と助言を与え、私を含む多くの弟子たちを育成してこられました。亀山先生が育てた弟子たちは、現在もそれぞれの領域で活躍し、日本のてんかん・機能的脳神経外科を支える重要な役割を担っています。私自身も、亀山先生から受けた恩恵に感謝し、その教えを胸に日々の診療と研究に励んでおります。

今回、亀山先生を名誉ある賞に推薦させていただけることは、私にとって大変光栄なことであり、深い喜びを感じております。亀山先生の長年にわたる多大な貢献と、医療と研究に対する真摯な姿勢、そして温かい人柄に敬意を表し、ここに強く推薦申し上げます。

聖隷浜松病院 てんかん・機能神経センター
センター長 藤本礼尚